

平成20年度

原町成年寮地域生活援助センター

(共同生活援助・共同生活介護事業)

事業報告

社会福祉法人原町成年寮

《平成20年度 原町成年寮地域生活援助センター 事業計画に基づく実施結果》

1. はじめに

障害者自立支援法が施行されて3年目を迎え、新法の下、共同生活援助（グループホーム）・共同生活介護事業（ケアホーム）は事業所「かつしかセンター」を中心に飛躍的に事業を拡大し、総定員は300名に達しようとしている。

特に今年度は9か所のユニットの新規開設、36名の定員増、38名の新規利用者の受け入れと、この10年間で最高の拡大実績数を残した1年であった。

これは障害者自立支援法の理念である「自立と共生社会の実現」という社会のニーズに応えたものであるが、それは量の拡大とともにサービスの質の確保と向上という課題が、また事業の拡大とともにガバナンス（組織統治）という課題が、比例的に増大してくることであり、両者を総合的に発展させていかないと全体のバランスは危うくなることは肝に銘じておかなければいけない。

また今年度は第3次プロジェクトの終了年度であったが、本事業においては概ねプロジェクトに沿った事業展開が遂行されたといえる。

2. 体制 計画通り実施

（10月）かつしかセンター内に定員10名の重度重複ケアホームを開設した。

3. 担当

センター／地区

年度中にかつしかセンターの「カノン」「すいか」を世話人業務委託からセンターチームに組み込んだ。（地区GHからセンターGHへ編成）

担当としては ビスケット・波柴

カノン・堀（センターGH）

ゆるり・浅田（センターGH）に変更した。

いたばしセンターの「第2板橋寮」を廃寮し、「第1板橋寮」の1ユニットに再編成した。高齢化や通所の確保等の問題を考慮した上で4名の利用者がかつしかセンターの新規ユニット「かりん」に移動して生活を再構築した。アンジュ、奥戸福祉館の利用につなげることができた。

生活支援センター

夫婦3組を含む7名がGH/CHのサービスに移行した。

新規利用として大田通勤寮の卒寮生（高砂AP生活）と、葛飾区内AP生活者を受け入れた。

利用数16名（3月末）

地域バックアップ

10月、つばさの世話人業務を原町成年寮が運営事業者と委託契約した。

これによりセンター第1チームに組み入れて原町独自のGH支援を実施することになった。

4. 組織 計画通り実施

5. 原町成年寮地域生活援助センター事業計画

① 都外事業（小諸生活寮・おむすび長屋・横堀ホーム）の整理によって生じる、利用者の必要なアフターケアを行う。

旧「小諸生活寮・おむすび長屋」の利用者をアフターケア登録とし、連休、お盆、お正月には要請に応じ受け入れを実施した。また積極的に余暇活動に参加してもらった。

② 新通所事業が開設される。就労移行事業所とセンター就労チームの連携をはかる。各チームの利用者の就労援助、定期的な職場訪問により事業所の認知、ハローワーク等への同行により様々な学習の場とする。また必要であればセンターにもジョブコーチを配置する。生活介護事業所は利用者の高齢化に対応するように、協力していく。

多機能型新通所事業が開所した。

就労移行事業については、センター就労チームが連携し就労困難ケースや職場定着支援に取り組んだことで、センター内での就労支援システムの構築の基礎となった。

また生活介護事業「アンジュ」の開所により、日中活動を確保できない利用者をほぼ取り入れることができ、利用者の生活が昼夜ともに生き生きと見違えるように変化した。

この2つの事業の開所はセンター利用者・スタッフにとって積年の念願でもあったので、利用者の地域社会生活の安定のための大きな前進であった。

さらに医療的ケアという意味でも「アンジュ」との連携は、GHスタッフに大きい安心感をもたらすことになった。

③ 3つ目の重度重複ケアホームの開設を10月に実施する。それにあわせて開設準備室を立ち上げる。利用者の適切な支援を行う。

10月、「東立石生活寮」「あさぎ・もえぎ」に続き重度重複ケアホーム「ゆるり」を開設することができた。これにより在宅や入所施設からの重度・重度重複障害者の地域生活移行希望に微力ながらも応えることができたのだが、重度障害者のケアホーム利用ニーズを掘り起こし、改めてその重要性が大きいことを実感することになった。

同時に、重度障害者に対する支援の専門性とその支援技術の向上が課題として見えて

きた。

④ センター事務所の移転を5月末あるいは6月に実施する。IT関連の整備を同時に行う。

7月、センター事務所を第3長谷川ビルから新ビル4階に移転した。

これにより原町成年寮の地域生活支援における中核的な拠点が確立された。

移転に伴いPCを増設したが、職員数に対してPC端末が少ないのが実情であった。

⑤ 人事については新事業の開設等にあわせ、4月、7月、10月に実施する。

計画通り実施された。

⑥ 本人活動支援の立ち上げを準備する。

残念ながら立ち上げについて具体的な準備には至らなかった。

第4次プロジェクトに課題として持ち越した。

6. 研修計画

副所長の責任の下、サービス管理責任者会議で検討し年間の研修を実施した。

新人職員を含め全常勤職員が研修に参加できた。

また今年度は援助センター内で独自の新人研修を定期的にも実施した。

7. 広報委員会

今年度から法人広報委員会が形成され、「かわら版」の紙面印刷を実施した。

8. NPO-KISS 事業報告

略

その他

- i. 「事業所・ユニット 新規開設・変更」「新規利用者受入状況」「新規利用所一覧」について（別紙参照）

ここ数年の傾向通り、在宅、入所施設からの利用希望は多く、受入先のほぼ50%を占める。今年度は「ゆりり」の開設もあったため区分別状況としては重度の傾向が高かったが、社会的なニーズとしても依然重度化の傾向である。

また障害の多様化という点では発達障害と診断された利用者1名、発達障害と思われる利用者1名の新規利用があった。

高齢化については、身体機能の低下と胃ろう手術のため療養型病院へ入院し、利用解除（支給決定の停止）となった利用者が1名あった。

ii. 消防法による規制の強化

高齢者グループホーム等の火災事件が相次いだことにより、消防法による規制が強化された。

すべてのユニットに立ち入り検査が実施され、法令に基づき違反指摘を受けたユニットが多く出たが、年度内中に全ての違反指摘は改善した。(ただし、経過措置期間までの延期申請受理を含む)

誘導灯と防災物品（主にカーテン）の設置については東京都による補助金が全額適用された。

iii. 特別支援学校からの体験実習受け入れ

特別支援学校高等部在学中の生徒 3 名のグループホーム体験実習を受け入れた。第 1 生活寮と二コールで 3 回、延べ 24 日間実施した。制度外の任意受け入れなので現場には通常業務に加えての支援であったので負担を強いしたが、特別支援学校卒業後のグループホーム利用希望が増えてきている情勢であり、今後の学校との連携にとって意味のあることだった。

iv. 成年後見制度活用の増加

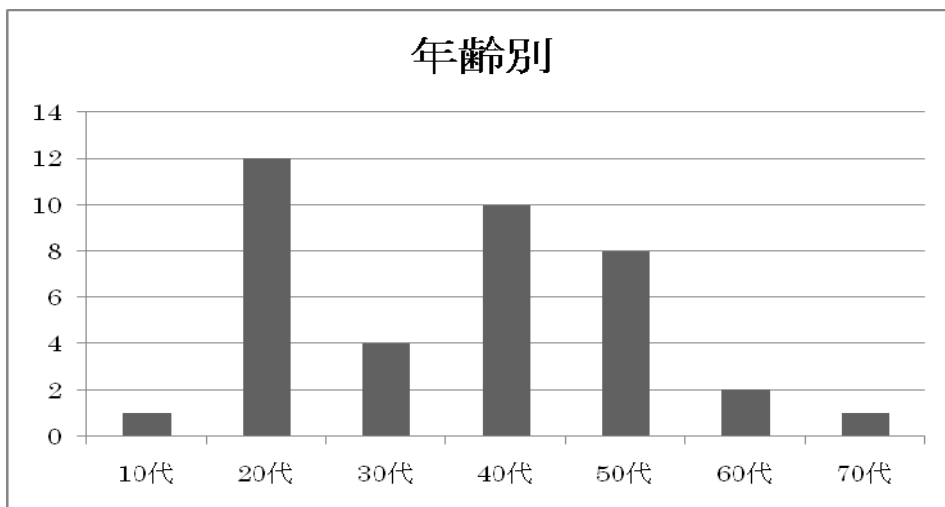
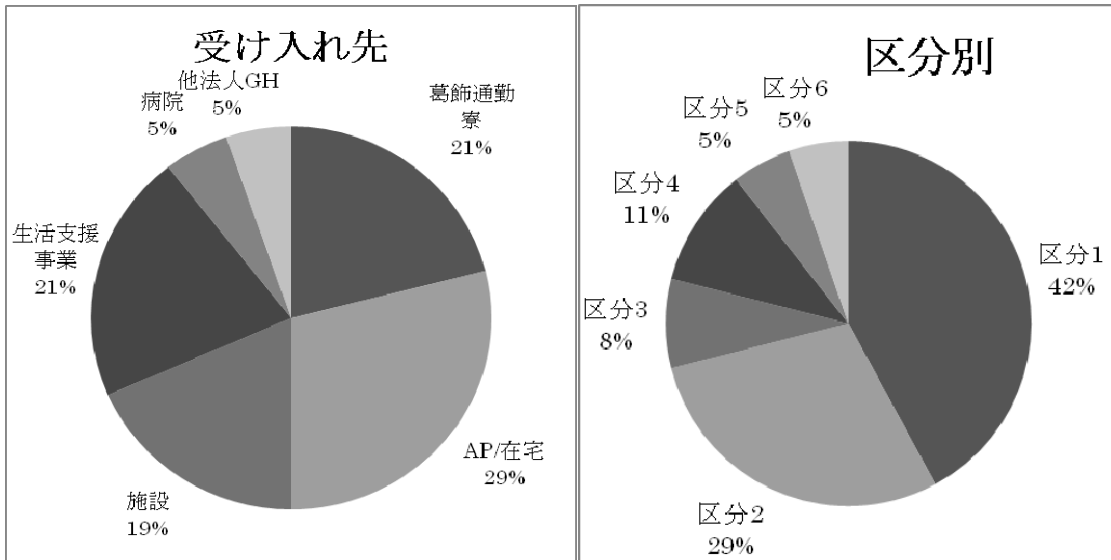
成年後見制度の利用者が増えてきている。

類型は保佐 7、後見 5、後見人の種類も第三者後見（弁護士、司法書士、社会福祉士、法人後見、複数後見）、親族後見とほとんどの形態がある。

		年齢	類型	後見人	
1	男	36	保佐	第 三 者 後 見	弁護士
2	男	40	保佐		弁護士
3	男	54	保佐		司法書士
4	女	53	後見		社協後見センター【法人後見】
5	男	30	保佐		弁護士・福祉職員【複数後見】
6	女	46	保佐		社協後見センター【法人後見】
7	女	55	保佐		社会福祉士
8	女	47	後見	親 族 後 見	兄弟姉妹
9	男	53	保佐		兄弟姉妹
10	女	51	後見		親
11	女	33	後見		兄弟姉妹
12	男	32	後見		親

平成 20 年度 新規利用者受入状況

受け入れ先		性別		区分		年齢	
葛飾通勤寮	8	男性	25	区分 1	16	10 代	1
AP/在宅	11	女性	13	区分 2	11	20 代	12
施設	7	計	38	区分 3	3	30 代	4
生活支援事業	8			区分 4	4	40 代	10
病院	2			区分 5	2	50 代	8
他法人 GH	2			区分 6	2	60 代	2
計	38			計	38	70 代	1
						計	38



平成 20 年度 事業所・ユニット 新規開設・変更

事業所 かつしかセンター

変更年月日	変更内容			
	種類	ユニット	定員	住所
平成 20 年 7 月 1 日	新規開設	らいふ	7	立石 2-1-2
平成 20 年 7 月 1 日	新規開設	ワン	2	東立石 2-7-5/210
平成 20 年 7 月 1 日	新規開設	モア	2	白鳥 1-12-8/202
平成 20 年 7 月 1 日	新規開設	キス	2	立石 8-39-12/310
平成 20 年 10 月 1 日	新規開設	ゆるり	10	立石 1-7-29/5・6・7F
平成 20 年 12 月 1 日	定員変更	トマト	増 2	
平成 20 年 12 月 1 日	定員変更	まねき猫	増 2	
平成 21 年 2 月 1 日	新規開設	まねっ子猫	2	立石 1-5-1/302/502
平成 21 年 3 月 1 日	新規開設	チロル	3	立石 3-17-7
平成 21 年 3 月 1 日	新規開設	かりん	4	東四つ木 2-12-3/302
平成 21 年 3 月 1 日	定員変更	公園前	増 2	

平成 20 年 10 月 1 日	業務委託	つばさ	4	西新小岩 4-3-3
		第 2 つばさ	2	西新小岩 4-8-29/202

事業所 すみだセンター

平成 21 年 3 月 1 日	新規開設	丸八寮	2	墨田区立花 3-12-1/209 /709
-----------------	------	-----	---	--------------------------

事業所 いたばしセンター

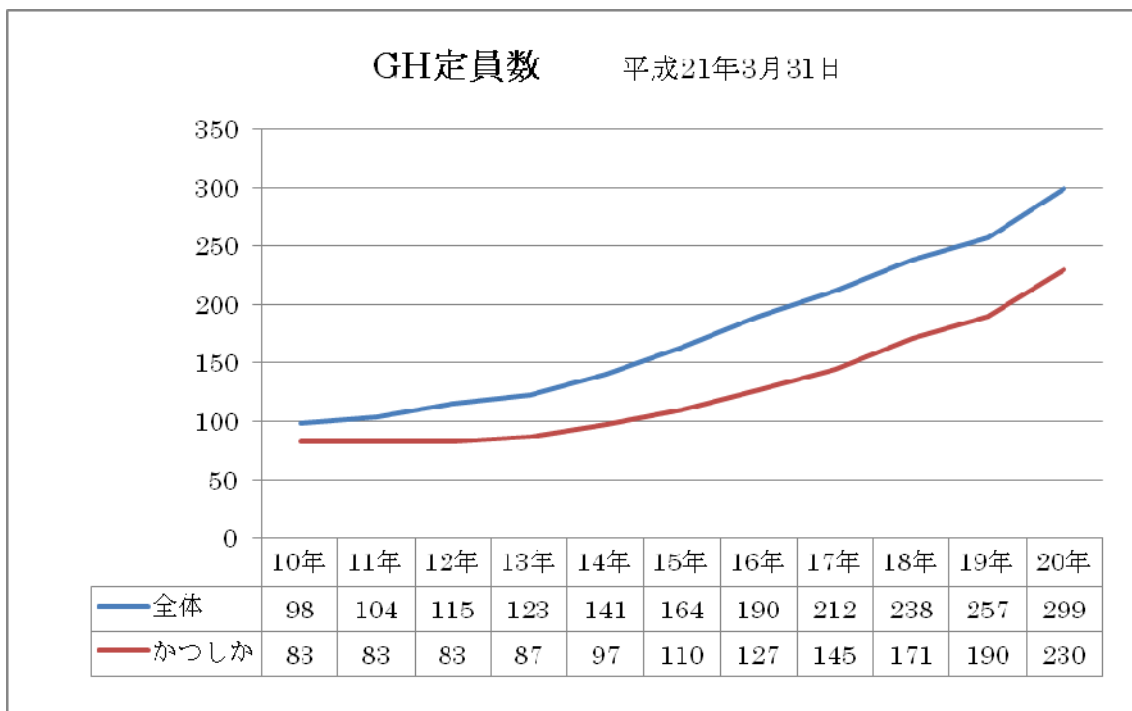
平成 21 年 3 月 31 日	廃止	第 2 板橋寮	4	
------------------	----	---------	---	--

定員数	36 名増
ユニット数	9 カ所開設
	1 カ所廃止

共同生活援助・共同生活介護事業 平成21年3月実績報告（平成21年3月31日）

事業所	定員	援助・利用数	介護・利用数	利用数合計
かつしかセンター	230	122	95	217
すみだセンター	26	4	20	24
あらかわセンター	12	8	4	12
えどがわセンター	8	5	3	8
あだちセンター	8	4	4	8
いたばしセンター	8	4	4	8
さくら生活寮	7	5	2	7
合計	299	152	132	284

つばさ	6	0	5	5
-----	---	---	---	---



原町成年寮地域生活援助センター

生活介護事業所アンジュ

平成 20 年度

事 業 総 括

1. 全体

新通所事業として、生活介護事業所（定員 40 名）が 7 月 1 日に開所し、利用者 23 名、職員 8 名からスタートした。利用者の方々の日中活動の場として、利用者一人ひとりの実態にあった活動ができるような環境づくりをめざした。

しかし、1 名の利用者については食事が摂れず通所できない状況が 3 ヶ月続き、今後も通所は厳しいということで 10 月末に退所となった。

11 月 1 日からは、生活介護事業所アンジュの従たる事業所としてパン工房モモズレシビが加わった。そして、アンジュの定員も 11 月末には 33 名となるが、年齢の幅も 30～69 歳、平均年齢 51.8 歳と高く、又活動の場も狭く感じるようになり重度の利用者の安全性を考え、主たる事業所より徒歩 3 分の場所に出張所というかたちで活動の場を確保し、2 月より利用者 5 名、職員 2 名が移動し活動を行った。

また、グループホーム・ケアホーム利用者の一時的な受け入れや他実習者の受け入れなど柔軟に対応することで、援助センターの中の通所事業としての役割も大きかったように思われた。

2. 活動内容

①機能訓練

利用者の心身の状況に応じて機能訓練を行った。また、健康活動として天候を考慮しながらウォーキングを行ったが、職員数が少ない為、晴れている日でもウォーキングに行くことができないこともあった。また、重度の方を対象にプール活動を行い 3 名が参加した。

プール活動実施日

7/17 7/23 8/7 8/27 9/10

②創作活動

主にクッキングを中心に季節にあったお菓子作りを 1 ヶ月に 1 回のペースで行った。利用者からも月 1 回の楽しい活動との声が聞かれた。

また、作業がない時間を利用しペーパークラフトを行い、アンジュの看板を作った。

8/26	白玉入りフルーツポンチ	12/25	クリスマスケーキ
9/19	さつま芋のきんつば	2/13	チョコレートサンデー
10/24	かぼちゃどら焼き	3/27	ホットケーキ& ホイップトッピング
11/28	ヘルシーゴマ汁粉 ポテト磯辺焼き		

③音楽活動

毎回、参加するメンバーの楽しみの時間になっている。

メンバー同士、互いに意識しながらも、講師が奏でる音楽に合わせて自信をもって楽器を鳴らしている様子がよく見られた。

年 18 回を予定していたが、10 月 1 回と 2 月 2 回は講師の都合で音楽活動が中止になり、15 回行った。

④軽作業

区内の(株)東栄社より、学習教材の袋詰めの作業を行うが、景気の悪化もあり、一つの業者だけでは活動ができない状況となった。そのため、10 月末より江戸川区の業者フェニックスより内職作業を請負うことで、年間を通して安定した作業を提供することができた。また、就労移行事業所よりレンタルタオルの配達を請負い、重度の利用者の方も配達に加わり、集団の中での役割、自己選択・自己決定ができる環境づくりをし、作業を実施した。その収益については、工賃規定に則り全員に工賃をして支給した。

⑤その他の販売

さをり

下町やの納品は 10 月と 11 月の 2 回納品した。

お茶

お茶注文は、老人デイサービスなごやか小岩、江戸川、亀有から定期的に注文が入った。また 2 月から同じく亀有第 2 からの注文が加わった。

売上

受注作業	
東栄社	698,816
フェニックス	149,273
レンタルタオル配達	27,000
奥戸福祉館よりの請負	4,800
その他販売	
さをり	25,950
お茶	285,180
売上計	1,191,019

3. 健康管理

利用者の日々の健康状態の把握に努め、月末には体重・血圧測定を行った。また、肥満や慢性疾患のため食事などの管理が必要な利用者もいることから、家庭やグループホーム・ケアホーム職員と連携を取りながら健康で過ごせるように常に留意した。

4. 行事

ぶどう狩りについては就労移行と合同で実施した。ほぼ全員の利用者が参加され皆さん満足されていた。

ぶどう狩り	9月26日、10月3日
いちご狩り	3月25日

5. モモズレシピ（従たる事業所）

9月1日にオープン後奥戸福祉館で事業運営されていたが、11月より生活介護事業所アンジュの従たる事業所となった。しかし、年度内は奥戸福祉館の利用者、職員が中心に携わり、アンジュからは職員2名が入り引き継ぐかたちとなった。

販売面では、ドッグをメインに販売するが売れゆきが悪く、他の商品についても売上が伸びない状況だった。また、天候によってはお客が入らないこともあり、メニュー、価格、販売方法など奥戸福祉館パン工房、アンジュ合同で会議を開き検討を行った。

細菌検査（検便）実施日 12月9日、3月24日

売上 ￥1,515,406

平成 20 年度

原町成年寮生活援助センター

就労移行支援事業所 事業報告

① アセスメントの精度向上について

I. 開設当初の作業内容→清掃、レンタルタオル。左記に加え、SST、積み木作業、文字トレーニングを実施。個々の利用者を多角的に捉えることができるように曜日別にプログラム化を行った。

② 求人情報の提供について

I. 利用者に対して定期的に求人情報の提供ができるよう、職場開拓を行う。
→ハローワーク、就労支援センターとの連携により求人情報を利用者に提供。

II. アセスメントの内容に応じて、利用者の適性に合った求人情報の提供ができるよう努める。→上記の求人情報をもとに、作業内容を確認し利用者ごとに適性に合った求人情報を提供した。

③ 施設外就労について

I. 施設外での就労を安心して体験できる場の確保として、施設外就労の場を確保する。→利用者の就職先の確保を優先すると、施設外就労は職員体制に無理が生じるため、実施しなかった。施設の外での就労の場としては、施設外支援を実施し実習中の支援を行った。

施設外支援・就職・離職件数

月	実施件数	就職件数	離職件数
7月	3	0	0
8月	3	3	0
9月	4	1	1
10月	3	2	1
11月	2	0	1
12月	0	1	0
1月	3	2	1
2月	3	1	0
3月	3	0	0
合計	24	10	4

※施設外支援実施件数は延べでカウント

※就職件数はトライアル雇用も含む

※離職件数はトライアル雇用中止も含む

④ 連携の強化

I. 利用者を中心とした支援を円滑に行うことができるよう、必要に応じて外部機関

との連携を積極的に行う。→就労支援センター、障害者職業センターと情報交換を行い連携を図った。

- Ⅱ. 法人内部の就労チーム、ジョブコーチ、グループホーム担当と定期的に情報交換を行い、円滑な支援の提供に努める。→スムーズに支援を提供できるよう、日常的な利用者の情報交換、また必要に応じたケース会議の開催を行った。